

早いもので、もう11月。今年度もあと5カ月となりました。2学期は、小学校では運動会や音楽会、中学校では文化祭など、子どもたちが学習の成果を発揮する場面が多く見られたことと思います。それぞれの行事を通して、子どもたちは成長し、学級の団結力も強まったことでしょう。さて、大きな行事もひと段落した今、子どもたちとじっくり関わり合うチャンスです。子どもの取組のよさを見つけ、成長の姿を賞賛していきましょう。

<小学校>

集中力のない児童をどうとらえるか

まず当該児童とゆっくり面談し、本人の気持ちを傾聴してみましょう。さらに次の視点から、教師のその子への関わり方を見直してみましょう。

- ① 手作業などをとまらせた操作活動、学習遊びやゲームなどを取り入れているか。
- ② その子に活動の機会を与えているか。
- ③ 教師の指示・発問の仕方は適切か。
- ④ 後ろ向きになっての板書や説明の時間が長すぎないか。
- ⑤ 授業中、励ましの言葉よりも注意の言葉の方が多くなっていないか。
- ⑥ 座席の位置に問題はないか。
- ⑦ その子が他に注意を向けてしまうような物(環境)が教室にないか。

落ち着きのない子どもたちは、常に教師から「落ち着きなさい」を繰り返し聞かされています。同じ言葉の繰り返しでなく、その子が活動に集中できる環境づくりや教材を工夫してみましょう。

学級づくりとしての読書活動の視点

「個」の多様性が生かされる読書活動は、「違いを認め合い」「個を伸ばす」学級づくりに生かされます。そのために、朝の読書等において教師が一人一人の興味関心の違いを大切にし、児童同士が交流し、認め合う活動を工夫してみませんか。

- 例えば、次のような活動を行い、学級全体で楽しみましょう。
- ◎先生が読み聞かせの途中でわざと間違えます。それを子どもが発見する活動
- ◎「これは誰の言葉でしょう？」と投げかけ、児童が会話文を読んで、話者を当てる活動
- ◎原題とは違うタイトルを考える活動。理由も含め、小グループで交流することもできます。

同じ作者の本、同じテーマの本をブックトーク等で紹介し合う活動につなげると、さらに話題も広がり、学級の中に楽しい会話が広がっていくはずですよ。

<中学校>

人権教育としてのキャリア教育を!!

「現在の自分」を理解し、「将来の自分」のイメージ(キャリアビジョン)とつなげて考えること、つまり、「生徒一人一人が、自己肯定感を高め、自分のあり方・生き方を自らデザインし、切り拓いていく力を育む」人権教育の理念と営みは、キャリア教育の根幹と重なります。

☆まずは「自分さがし」のプロセスを保障しましょう。

社会体験活動*における「自分さがし」のプロセス
(*職場体験・福祉体験・ボランティア活動など)



体験を終えて、関係者の方々や友だちといっしょに振り返ってみて、「やり抜いた」達成感や「役に立った」喜びを実感することができました。これからの自分は、私らしく、自信をもって、生活していきたいです。(M生)

その子の内側に芽生えはじめた自己肯定感をさらに高める言葉かけをしましょう



「誤答」の受け止め方

答えを間違えた生徒がいた時に、「それは間違いです。」ではなく「がんばって答えてくれたね。Aさんは、どうしてそう思ったのかな?」と、その生徒なりの考え方を聞いてみます。あるいは、Aさんがうまく言えない時には「誰かAさんを助けて、Aさんがそう考えたわけを言える人?」と、他の生徒の助けを求めることもあるでしょう。一人一人を大切にする教師の姿勢が学級に伝わると、間違いに対して恐れを抱かず教室全体が活気を帯びてきます。

このほかにも、教師の姿勢として、次のようなことを大切にしていきたいものです。

- ◇発言をせかさずに待つ、終わりまで聞く。
- ◇発言の内容ばかりでなく、発言の意欲(気持ち)を大切にする。
- ◇「これしかできない」より「ここまでやれた」と認める。

こうした教師の姿勢が、友だちの失敗や間違いに対して寛容な温かい学級作りにつながります。